

武雄市新球場建設基本計画

令和元年 7 月

武 雄 市

目 次

第1章	検討経過及び上位計画		
1	検討経過	・・・	1
2	上位計画	・・・	3
第2章	現状と課題		
1	市内球場の現況	・・・	5
2	白岩球場の課題	・・・	5
第3章	基本方針		
	整備コンセプト		
1	利用しやすく親しみが持てる球場へ	・・・	6
2	本市初の本格的な球場へ	・・・	6
3	すべての人にやさしい球場へ	・・・	7
4	運営・維持管理に配慮した球場へ	・・・	7
第4章	基本指標		
1	想定利用者数	・・・	8
2	想定開催大会	・・・	9
3	必要駐車場の規模	・・・	11
第5章	新球場の位置とその周辺環境		
1	計画地	・・・	12
2	都市基盤整備	・・・	13
第6章	建設計画		
1	規模及び機能	・・・	15
2	配置計画	・・・	16
3	概算事業費及び財源計画	・・・	16
4	事業手法	・・・	16
5	白岩球場の取扱い	・・・	17
6	事業概要スケジュール	・・・	17
第7章	運営・維持管理計画		
1	管理、運営方式の検討	・・・	18
2	利用料金の検討	・・・	18

第1章 検討経過及び上位計画

1 検討経過

「武雄市公共施設等総合管理計画」、「武雄市公共施設等個別施設計画（スポーツ施設編）」において、体育施設の今後のあり方などを取りまとめました。

そのなかで、老朽化に伴う維持管理費が増加傾向にあることや、バリアフリー対応が万全ではないことなどの課題を持つ白岩体育館は、市内の体育館で最も規模が大きく利用者も多い施設であり、先行して建て替えに向けた検討をしてきました。

新体育館を同じ敷地に建設する場合、代替えとなる施設が無く、長期間利用できなくなることにより、定期的な利用や大会開催などに多くの不便が発生することになります。

また、白岩体育館は白岩運動公園を管理する上で中心的な役割を担っていることなどもふまえると、白岩運動公園内への整備が望ましく、今の白岩球場の敷地に新体育館を建てるのが最適であるとの結論に至りました。

なお、白岩球場は白岩運動公園外（東川登町・公共工事に伴う残土処分場）に移転再整備することで、球場が抱える課題点などの改善にもつながります。

(1) 武雄市白岩運動公園体育施設整備に係る基礎調査（令和元年5月）

新体育館と新球場の建替え実現性や必要機能についての検討、検証を行うために武雄市白岩運動公園体育施設整備に係る基礎調査を実施しました。

調査の結果、新球場の候補地としていた東川登町の残土処分場への建設は敷地的に可能であるとの見解に至り、内容は本計画にも反映しています。

(2) 武雄市白岩球場について

白岩球場は昭和50年（1975年）に竣工し、佐賀国体（昭和51年）ではソフトボール会場となるなど、市の中心的な球場として多くの市民に利用されてきました。

しかし、経年による施設の老朽化が進み、市体育協会や競技団体から整備を望む声や2023年国民スポーツ大会軟式野球競技の開催に向けた整備の必要性も指摘されています。

さらに、利用面では硬式球・準硬式球を使用した練習、合宿、大会などの打診はあるものの、施設面での課題により利用を制限せざるを得ない状況となっています。駐車スペース不足、道路に面する左翼側防球ネットの高さ不足によるファウルボールの危険性、ナイター照明設備がないことなど大規模な事案から、ベンチ前へのフェンス設置や球場内側溝のコンクリート蓋へのラバー敷設などプレイヤーの安全確保対策まで、現球場の課題点は多くあります。



(今の白岩球場、白岩体育館)

以上のような課題などに加え、財政面及び国民スポーツ大会の県内開催などを見据えた事業スケジュールの点から、新球場整備を早期に取り組んでいく必要があります。

- 武雄市体育施設整備検討委員会
委員長：北川副市長
構成：副市長、教育長、総務部長、企画部長、まちづくり部長、こども教育部長、こども教育部理事、関係課長等
開催：平成29年10月～令和元年7月8日 計15回
- 武雄市スポーツ施設検討市民会議
構成：13名
開催：平成31年2月18日、2月27日、3月7日
- 2023年国民スポーツ大会軟式野球競技正規視察
構成：2名
開催：平成31年4月23日～25日
- 武雄市新球場整備検討幹事会
構成：関係各課より選出 13名
開催：平成31年4月22日～令和元年7月3日 計7回
- ヒアリング調査等
一般財団法人武雄市体育協会：令和元年7月5日
武雄市軟式野球連盟：令和元年6月24日、6月27日、7月1日 計3回

2 上位計画

新球場建設事業に関連する上位計画には次のものがあります。

(1) 武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略

「基本目標③ 生きがいと健康を実感できるまちをつくる」

生きがいと健康をもって社会にかかわることが重要として取り組んでいる。

その具体的施策として、健康増進のための事業を展開しており、それらの受け皿となる諸施設の整備が求められている。

「基本目標④ 来てもらう・住んでもらうまちをつくる」

武雄市への新しいひとの流れをつくるべく交流人口の増加に向けた取組や、スポーツ大会誘致等を具体的施策とし、多くの人やアスリートが訪れることで、情報発信と魅力向上、地域の活性化につなげていく。

(2) 武雄市公共施設等総合管理計画

公共施設の老朽化に対して、施設の長寿命化や予防保全による維持管理、機能の統合・複合化による適正配置、管理運営方法等について、基本的な方向性を示し、適正な管理を推進する計画である。

(3) 武雄市公共施設等個別施設計画（スポーツ施設編）

武雄市のスポーツ施設について将来の方向性等を示した計画である。各施設の評価指標により「維持」「利用方法見直し」「修繕・更新」「廃止」に分類され、「施設量最適化」「長寿命化」「安全確保」の基本方針により施設の方向性を示している。白岩球場と北方グラウンドについては、「施設量最適化」の基本方針を示している。

(4) 武雄市行政改革プラン

武雄市の財政基盤の強化のため、将来に向けた課題として社会資本ストックの維持管理と更新が掲げられており、社会資本ストック（道路や学校、社会体育施設など）の老朽化に伴う維持補修費や更新費用が増大することへの対応策として、迅速に対応するコンパクトな組織体制と持続力のある健全な財政運営の実施を目指している。

(5) 武雄市地域防災計画

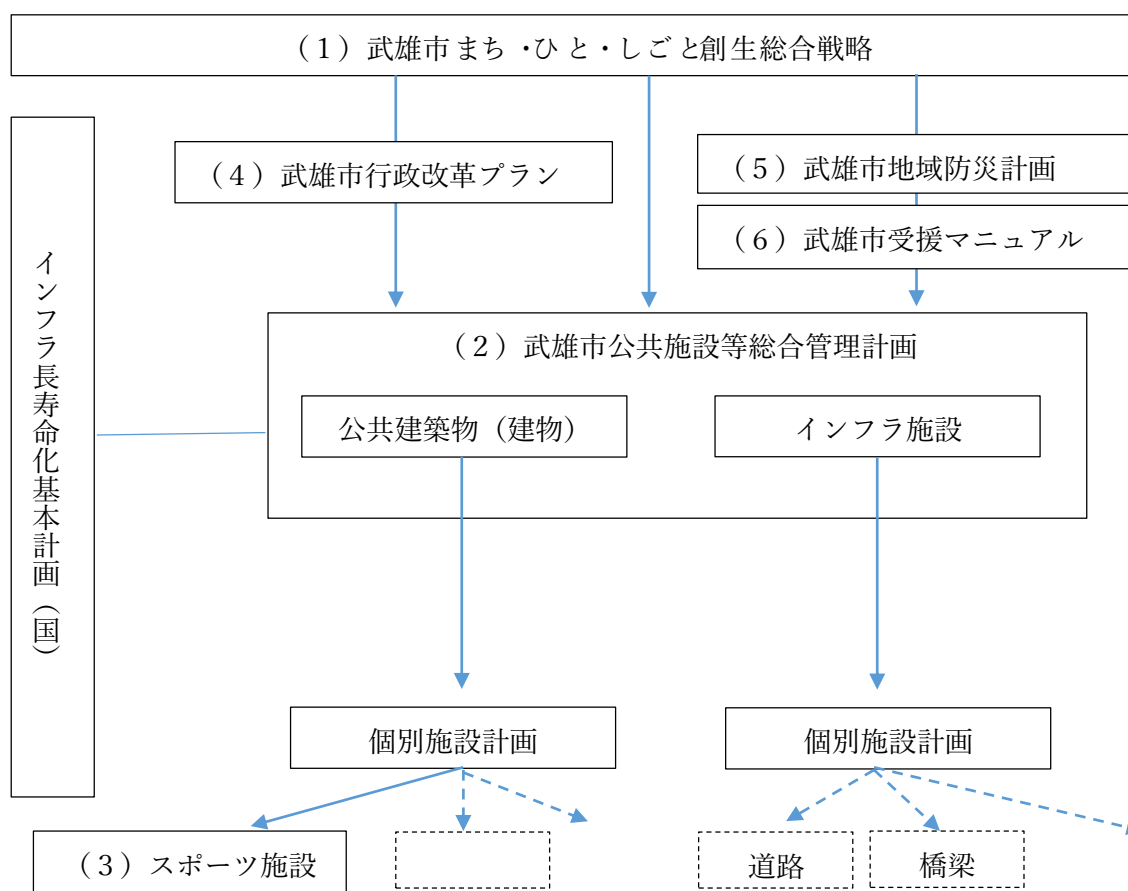
地域に係る防災に関し、施設の管理者等が処理すべき事務または業務の大綱を定め、さらに市民の役割を明らかにし、災害予防、災害応急対策および災害復旧・復興について必要な対策の基本を定めるとともに、これの総合的かつ計画的な推進を図ることにより、市土および市民の生命、身体および財産を災害から保

護することを目的としている。災害時、白岩運動公園一帯（白岩体育館、白岩球場、白岩競技場、白岩運動広場、白岩相撲場、白岩弓道場、白岩軽運動場、白岩ゲートボール場、駐車場）は、救助・救命活動への支援を行う警察・消防・自衛隊の部隊の展開、宿営等の拠点に位置づけられている。

(6) 武雄市受援マニュアル

大規模災害が発生した場合、外部からの応援を円滑に受け入れ、災害応急対策、災害復旧・復興に取り組んでいけるように策定されたマニュアルである。白岩運動公園一帯（白岩球場含む）は警察・消防・自衛隊の部隊の展開、宿営等の拠点として確保されている。

【各計画の関連イメージ】



第2章 現状と課題

1 市内球場の現況

施設名	白岩球場	サンスポーツランド 北方 多目的広場	北方グラウンド
総面積	18,900 m ²	21,095 m ²	7,902 m ²
競技面積	12,900 m ²	12,280 m ²	7,902 m ²
仕様	レフト・ライト 91m センター 120m	レフト・ライト 90m センター 115m	レフト・ライト 72m センター 91m
収容人数	約 600 人	約 300 人	—
駐車台数	54 台	28 台	28 台(兼用)
附属設備	本部席・放送席・記録席・ダッグアウト・スコアボード等	本部席・放送席・記録席・会議室・ベンチ・スコアボード等	ベンチ等
建設年度	1975 年(昭和 50 年)	1990 年(平成 2 年)	1975 年(昭和 50 年)
照明設備	無	有	無

2 白岩球場の課題

白岩球場の施設・設備は老朽化が進んでいるとともに、大会開催時などメインスタンド諸室などについては性能不足の状態です。

- ・競技者の安全確保対策

ダッグアウト前へのフェンス設置、球場内側溝のコンクリート蓋へのラバー敷設などの対応が急がれます。

- ・駐車スペースの不足

大会などにおいて慢性的な駐車場不足で白岩体育館周辺までを利用しており、球場と体育館、弓道場を利用した大会の同時開催は厳しい状況です。

- ・練習スペースの不足

駐車場内でのキャッチボールなどは他者や駐車車両への危険性があるため禁止しており、ウォーミングアップなどのためのサブグラウンドを望む声があります。

- ・硬式球使用の制限

主要道路に近接しているためファウルボール対策に課題があり、硬式球・準硬式球の使用を制限しているため、練習、合宿、大会の実施を求める声に対応できない状況となっています。

- ・夜間利用の制限

住宅地に近いことなどからナイター照明設備は設置しておらず、夜間利用はできない状況です。

- ・観客席等の制限

観客等が利用するメインスタンドや内外野スタンドなどには屋根のあるエリアがなく、日よけや急な天候悪化のときの雨よけ対策ができていません。

車いすやベビーカーなどに配慮したバリアフリーとなっていない状況です。

試合観戦には子ども連れによる応援もあり、様々な配慮が必要です。

第3章 基本方針

【整備コンセプト】

親しみやすく、みんなで育てていく球場

本事業では、これまで位置付けられてきた市の各計画を踏まえつつ、機能不足を解消できる施設となるよう、次に掲げる基本方針の下に、新球場を整備するものとします。

1 利用しやすく親しみが持てる球場へ

市民が競技力を伸ばし、発揮する場となる大会などの開催やトップレベルの競技が観戦できる場にするとともに、競技者が利用しやすい配置とし、ウォーミングアップなどが行いやすい周辺環境の整備を行います。

小さな子どもを連れた家族が安心して利用できる工夫や、競技者だけでなく応援、観戦に来た利用者も楽しく過ごせる施設を目指します。

また、健康づくりに資する日頃のスポーツ活動のため気軽に訪れることができるよう、市民に親しみをもってもらえるような環境とします。

2 本市初の本格的な球場へ

屋外体育施設の建設指針（「公益財団法人協会 屋外体育施設部会編集」（平成29年改訂版））に示す、「硬式野球公認野球場」を満たす規格（大きさ等）とすることを基本とします。

		ピッチャープレート～ ホームベース	各塁間	ホームベース～ バックネット	ホームベース～ レフト・ライト	ホームベース～ センター	面積 (グラウンド)
硬式 野球	プロの 野球場	18.44m	27.43m	18.29m以上	99.06m以上	121.92m以上	約14,000㎡～
	公認 野球場	同上	同上	同上	97.53m以上	同上	約13,500㎡～
軟式 野球	社会人	同上	同上	同上	91.44m以上	115.82㎡以上	約10,500㎡～
	学童	16.00m	23.00m	12.00m以上	70.00m以上	85.00m以上	約6,000㎡～
リトルリーグ		14.02m	18.29m	7.60m以上	60.95m～ 68.60m	60.95m～ 68.60m	約4,000㎡～

[出典]屋外体育施設の建設指針(公益財団法人日本体育施設協会屋外体育施設部会)平成29年改訂版

3 すべての人にやさしい球場へ

新球場整備にあたっては、ユニバーサルデザインを前提に競技者や観覧者などすべての利用者、特に高齢者や身体に障がいを持つ方が、快適に利用していただけるよう総合的なバリアフリー化を図ります。

4 運営・維持管理に配慮した球場へ

財政状況が厳しい中での新球場整備にあたっては、特に、持続可能な運営・維持管理に十分配慮する必要があります。

経済波及効果や健康づくり、地域振興への貢献など多面的な検討を行うとともに、長期的な視点に立ち、効率的かつ経済的な運営・維持管理の方法を採用して、将来にわたり市民の理解と協力を得られる運営・維持管理に努めます。

第4章 基本指標

1 想定利用者数

想定利用者数として現在の競技人口及び現施設の利用状況を示します。

(1) 市内競技団体の状況（平成30年度）

本市では、小学生から高齢者までの競技人口が把握しているだけで約700人と多く、休日の白岩球場稼働率が80%を超える月もあります。

大規模な大会における好成績やプロ野球選手も輩出するなど顕著な実績を積み重ねており、野球が盛んな土壌が形成されています。

一方で、一定規模以上の大会や合宿等が開催できなかつたり、硬式球・準硬式球を安心して使える球場が市内にないという現状があります。

種目	人数	チーム数	市民体育大会	県民体育大会
軟式野球	約640人	27	1部 (一般男子AB)	○
硬式野球 (高校含む)	約64人	3	-	-

(2) 球場利用状況（平成30年度）

		白岩球場	サンスポ北方
年間	件数	98件	152件
	うち大会利用	43件	23件
	内ナイター利用	-	25件
	使用人員	6,169人	5,056人

(3) 利用予測

利用時間としては、ナイター照明設備を整備することにより夜間利用が可能となり、大会利用時には試合の準備時間として早朝利用の弾力的な開放も想定しながら設定します。（現状：5時～20時（11月～3月は6時～18時））

休日は主に大会開催、平日は主に市内チームの練習等の利用が夜間を含めて見込まれます。

休場日を設けたり、平日の午前中などを芝生の養生やグラウンド整備に充てることで、質の高い本格的なグラウンドコンディションの維持に努めます。

2 想定開催大会

(1) 武雄市開催実績

想定大会の参考として武雄市での大会開催実績（平成 30 年度・個別大会以外）を示します。

○学童（小学生）

大会名	チーム数	大会日	試合会場
高円宮賜杯全日本学童（県大会）	8 (129)	5月19日	白岩運動広場
		5月26日	北方運動公園 G
		6月3日	他県内 13 支部
N T T 杯	9	7月1日	北方運動公園 G 北方小学校
		7月8日	白岩運動広場
学童オリンピック	9	10月7日	山内東小学校 東川登小学校
		10月14日	北方運動公園
ケーブルワンカップ	17	11月3日	白岩球場 北方 G 白岩運動広場
		11月4日	白岩球場
九州親善交流大会	32	8月4日	白岩球場 白岩運動広場 サンスポ北方 北方運動公園 G 山内西小学校
		8月5日	白岩球場 サンスポ北方
		8月6日	白岩球場
		11月4日	白岩球場

※チーム数の括弧内数字は大会参加総数

○中学生

大会名	チーム数	大会日	会場
武雄地区中学校大会	5	3月24日	サンスポ北方 北方中学校
		3月25日	北方中
中体連軟式野球大会	5	7月21日	白岩球場
		7月22日	
西部地区新人軟式野球大会	5 (24)	8月26日	白岩球場 他県内5会場
杵島武雄地区新人戦	4 (9)	10月8日	白岩球場 他県内1会場
		10月14日	白岩球場
杵島武雄杯	4 (9)	11月23日	北方サンスポ 他県内1会場
		11月24日	白岩球場

※チーム数の括弧内数字は大会参加総数

○一般

大会名	チーム数	大会日	試合会場
西日本大会 地区予選	4 (1部)	2月18日	白岩球場
	4 (2部)	2月18日	サンスポ北方
高松宮賜杯 地区予選	4 (1部)	3月4日	白岩球場
	4 (2部)	3月11日	白岩球場
日本スポーツマスターズ地区予選	4	4月8日	白岩球場
全日本シニア県予選	5 (10)	4月14日	白岩球場 他県内1会場
		4月15日	
		4月21日	
国体地区予選	8	4月29日	白岩球場
		5月13日	
アマチュア王座決定戦地区予選	12	5月27日	白岩球場
		6月10日	
		7月1日	
		7月29日	
九州成年選抜大会地区予選	4	6月24日	白岩球場

市民体育大会	9 (一般B)	7月8日	白岩球場
		7月15日	
	9 (一般A)	7月8日	サンスポ北方
		7月15日	
市成年大会	4	8月19日	白岩球場
会長杯 (県選手権予選)	12	9月23日	白岩球場
		10月7日	
県民体育大会	6 (20)	10月20日	白岩球場
		10月21日	他県内2会場
佐賀県軟式野球選手権	8 (20)	10月28日	白岩球場 他県内3会場
議長杯	4	11月11日	白岩球場
市長杯	12	11月25日	白岩球場
		12月2日	

※チーム数の括弧内数字は大会参加総数

○その他

大会名	チーム数	大会日	試合会場
近県交流寿スーパースター 軟式野球大会	14	10月12日	白岩球場
		10月13日	サンスポ北方 白岩運動広場
喜寿スーパーゴールド東西対抗	2	11月1日	白岩球場

3 必要駐車場の規模

白岩球場周辺には54台分（自家用車）があります。大会などが開催される際には、白岩体育館周辺を活用しながら100台程度の自家用車駐車場を確保するとともに、大型バスの駐車スペースを数台確保しています。

そこで、新球場においては想定駐車場台数を自家用で120台とし、大型バスについては近隣スペースなどで5台分の確保を想定します。

なお、不足する際は舗装を行わないスペースを駐車場とするなどにより対応することとします。

【参考】近隣球場との比較

	白岩球場	サンスポーツ ランド北方	鹿島市民球場 (鹿島市)	みゆき球場 (嬉野市)
駐車場台数	54台	28台	205台	106台

第5章 新球場の位置とその周辺環境

1 計画地



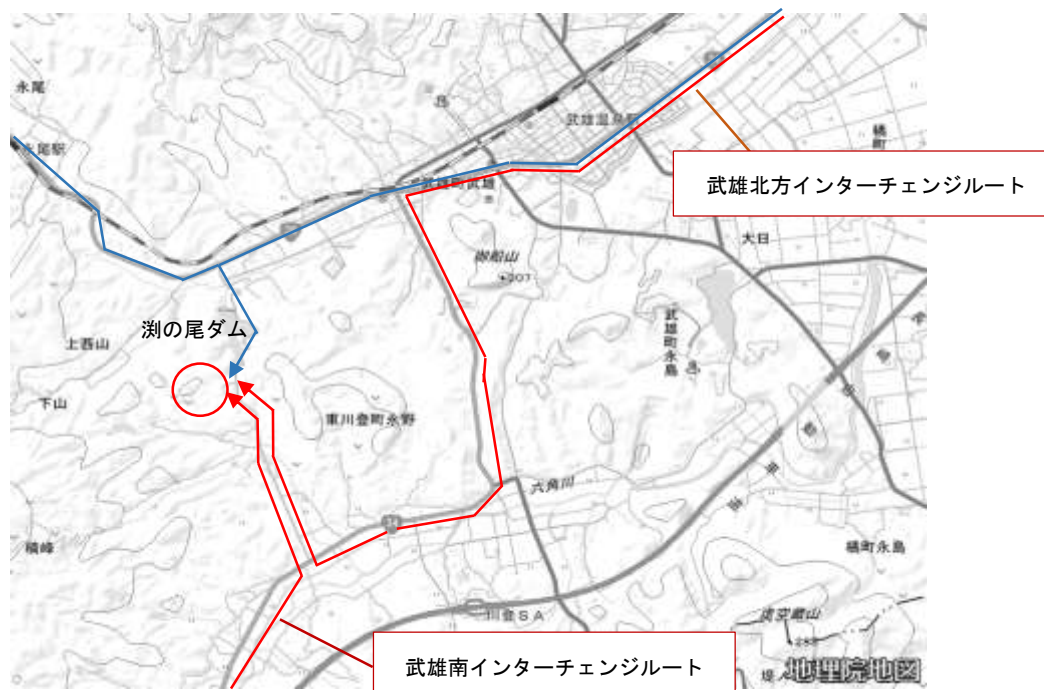
新球場の計画地は、白岩球場の課題点である駐車場不足、ファウルボール対策やナイター照明対応、硬式野球を行うことができる広さなどを解消できる相応の場所への移転建替えを行うこととします。

必要な規模及び機能を満たしながら、市有地の有効活用ができる公共工事に伴う永野残土処分場（東川登町内田区）への移転建替えを行うこととします。

○所在地：武雄市東川登町大字永野7859-18 ほか

2 都市基盤整備

(1) 計画地へのアクセス



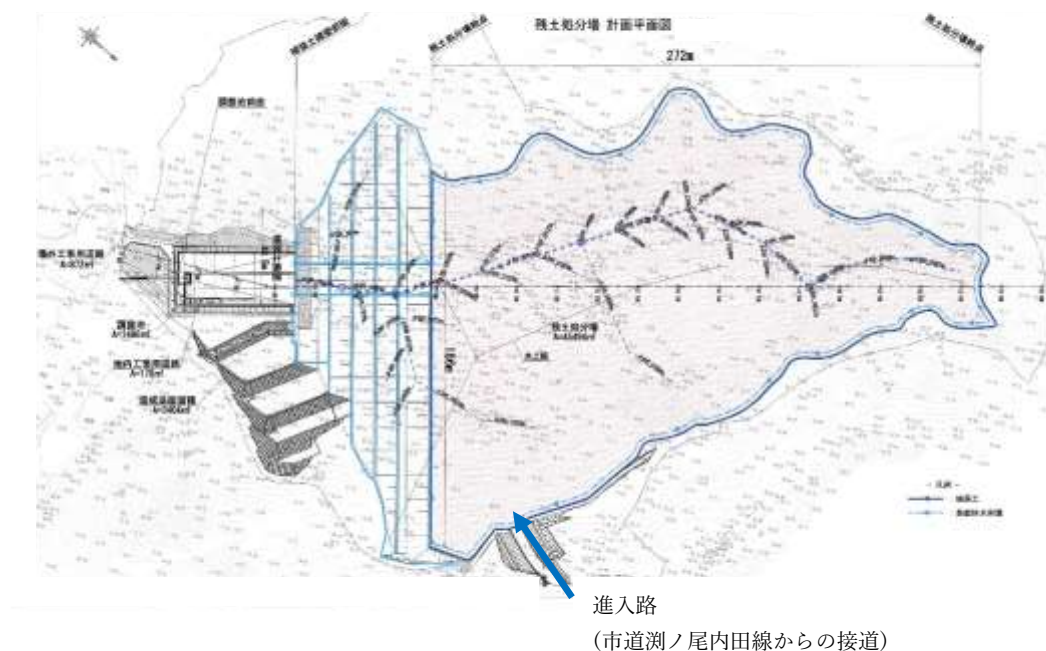
新球場の計画地は、東川登町内田区にあり、白岩球場から直線距離で4 km程度西側へ移転することになります。

市外からのアクセスは、武雄北方インターチェンジから車で約17分、武雄南インターチェンジからは約5分の距離となります。

自家用車や駅、バス停からの公共交通機関によるアクセスをふまえ、敷地進入路・案内看板の位置に加え、2023年国民スポーツ大会など大会、合宿誘致までを見据えた動線計画を検討します。

また、近隣自治体の球場と連携した合宿や大会誘致も想定されることから、発展的な取り組みも目指します。

(2) 土地利用



新球場の計画地は、約4.6haの広さを有し、平坦部は約3.5ha（球場等整備エリア）となっています。林地開発による排水処理計画をもとに適正な施設配置とし、周辺環境への影響を抑えた土地利用を行います。

遊水地機能は、公共工事に伴う残土処分場の整備に際し、調整池が設置されており、当該施設を活用します。

雨水排水は、調整池へ貯水のうえ、河川へ放流し、下水処理は、合併浄化槽により処理します。

近接民家からの距離及び高低差は次のとおりです。

- ・距離：約110m
- ・高低差：約35m

市道 澗ノ尾内田線からの接道を行い、平坦部まで敷地内道路を整備します。

第6章 建設計画

新球場の施設構成プランや必要諸室、配置検討にあたっては、先行して整備されている近年の球場整備の事例や国民スポーツ大会開催に向けた競技施設基準や機能、市内利用団体などからの意見を参考にします。

1 規模及び機能

新球場の基本的な規格は日本野球規則委員会が定める「公認野球規則」によるものとし、近隣の球場を参考としながら、国民スポーツ大会開催を勘案し、白岩球場において不足する機能を充実するものとします。

施設規模	レフト・ライト 98m 、 センター 122m	
想定機能	メインスタンド	[1階諸室] 競技本部、記録室、放送室、 事務室、審判員控室、救護室、 来賓室、更衣室、報道・視察者控室、 福祉席、会議室、用具室、 トイレ（多目的トイレ含）
	1階：約350㎡ 2階：約300㎡ 合計：約650㎡	
	ベンチ	
	バックスクリーン、スコアボード	
	ラバーフェンス、防球ネット（高さ想定15m、延長想定220m）	
	ナイター照明設備（照度：JISZ9127 スポーツ照明基準）	
	ブルペン（投球練習場）	
	多目的グラウンド	
	旗掲揚ポール	
	車いす観覧スペース、スロープ	
	内野スタンド、外野スタンド	
	内野エリア：黒土、外野エリア：天然芝生	
	球場内補充用土置き場（雨天対応）	
客席	メインスタンド2階（固定席（300～500席））、屋根付	
	内野スタンド・外野スタンド（両方盛土スタンドによる）	
駐車場	120台程度（舗装面）	
その他	備品類（放送設備ほか）	
	倉庫、掲示板	
	その他「屋外体育施設の建設指針」の基準によります。	

※詳細については基本設計において定めてまいります。

2 配置計画

新球場の方位（向き）は、競技者や利用者の利便性、排水処理計画、ナイター照明設備など関係法令（林地開発許可制度、騒音振動規制法、国際照明委員会基準など）、先行整備事例などを参考として総合的に勘案して配置します。

3 概算事業費及び財源計画

将来の人口構成と施設利用需要の変化、多様化への備えから、過大な費用の投入とならないよう、実情に応じた整備、改修などを行うとともに、維持管理費の軽減を講じます。

省エネルギーや環境負荷軽減に配慮し、低コストの維持管理を推進します。

備品の購入や入替などにおいて、既存備品類を整理し、計画的に実施します。

(1) 概算事業費

新球場の建設に要する概算事業費は、次表のとおりとします。

項目	概算事業費
本体工事費、外構工事等	約14億5,000万円
設計・監理・調査費等	約9,000万円
進入道路工事費等	約4,000万円
合計	約15億8,000万円

(武雄市体育施設建設基礎調査を基に算出)

(2) 財源計画

公共施設等適正管理推進事業債（充当率：90%、交付税措置：元利償還金の50%）や公衆無線LAN環境整備支援事業（総務省）などの活用を検討し、補完できない残額については一般財源などを充てることを想定します。

関係団体からの補助金や助成金も積極的に活用しながら財源確保に努めます。

(3) 維持管理費の軽減

短期計画として、水光熱費軽減を図った施設計画を検討します。

中期計画として、芝張替えなどにおけるメンテナンス性を検討します。

長期計画として、塗装改修やベンチ改修などの修繕費など、維持管理費の低減を図ります。

4 事業手法

想定工期内での竣工を見据え、工事内容による分割発注を想定します。

5 白岩球場の取扱い

既存の白岩球場は、新体育館の整備状況によって使用できなくなる期間が生じる可能性があります。

ご利用される個人、団体のみなさまへは事前に告知し、サンスポーツランド北方などの代替施設を案内するなど、できる限り利用者の利便性の確保に努めます。

6 事業概要スケジュール

2022年(令和4年)天皇賜杯全国軟式野球大会、2023年国民スポーツ大会佐賀大会軟式野球競技の大会会場として利用できるよう、供用開始を目指すものとします。

○スケジュール(概要)

令和元年度～令和2年度 基本設計及び実施設計

令和2年度～令和3年度 本体工事

令和4年度 周辺整備工事

第7章 運営・維持管理計画

1 管理、運営方式の検討

維持管理を効率的かつ効果的に実施するため、直営方式の他、民間事業者の資金や経営能力、運営ノウハウの活用を検討します。

○直営方式

- ・施設の設置、運営をともに公共団体が直接担う直営方式。
- ・管理運営に関する責任は行政が負い、清掃、警備などの一部の業務を民間事業者に委託する場合もこれに含まれる。
- ・職員の雇用や業務の実施等にかかる間接経費（一般管理費）は公共団体の負担となるため、施設そのものにかかる直接の管理運営経費は低くなることもある。

○指定管理者制度

- ・地方自治法にて規定される「公の施設」運営において、質の高い公共サービスを効率的に提供することを目的に、民間ノウハウの導入を図る制度。

○公共施設等運営権制度（コンセッション制度）

- ・利用料金の徴収を行う公共施設について、施設の所有権を公共主体が有したまま、施設の運営権を民間事業者にて設定する方式。
- ・公的主体が所有する公共施設等について、民間事業者による安定的で自由度の高い運営を可能とすることにより、利用者ニーズを反映した質の高いサービス提供が可能。

○ネーミングライツパートナー制度

- ・スポンサーとなる民間企業の企業名やブランド、商品名を公共施設に付す権利を与える制度である。これに伴う収入を財源として維持管理の費用等を一部に充当することが可能。
- ・広告の他、企業の社会的責任に位置づけられる社会貢献や地域貢献が可能となり、企業側にとってのメリットも大きい。
- ・企業の持つイメージや業績等に施設の印象が影響を受けやすい。

○サウンディング型市場調査

- ・事業内容や事業スキームなどに関して、民間事業者の意見や新たな提案の把握などを行うことで、対象事業の検討を進展させるための情報収集を目的とした手法。

2 利用料金などの検討

利用料金などは、周辺類似施設などを参考にしながらランニングコストに見合った料金を検討します。

また、自動販売機設置による収入や広告収入なども検討します。